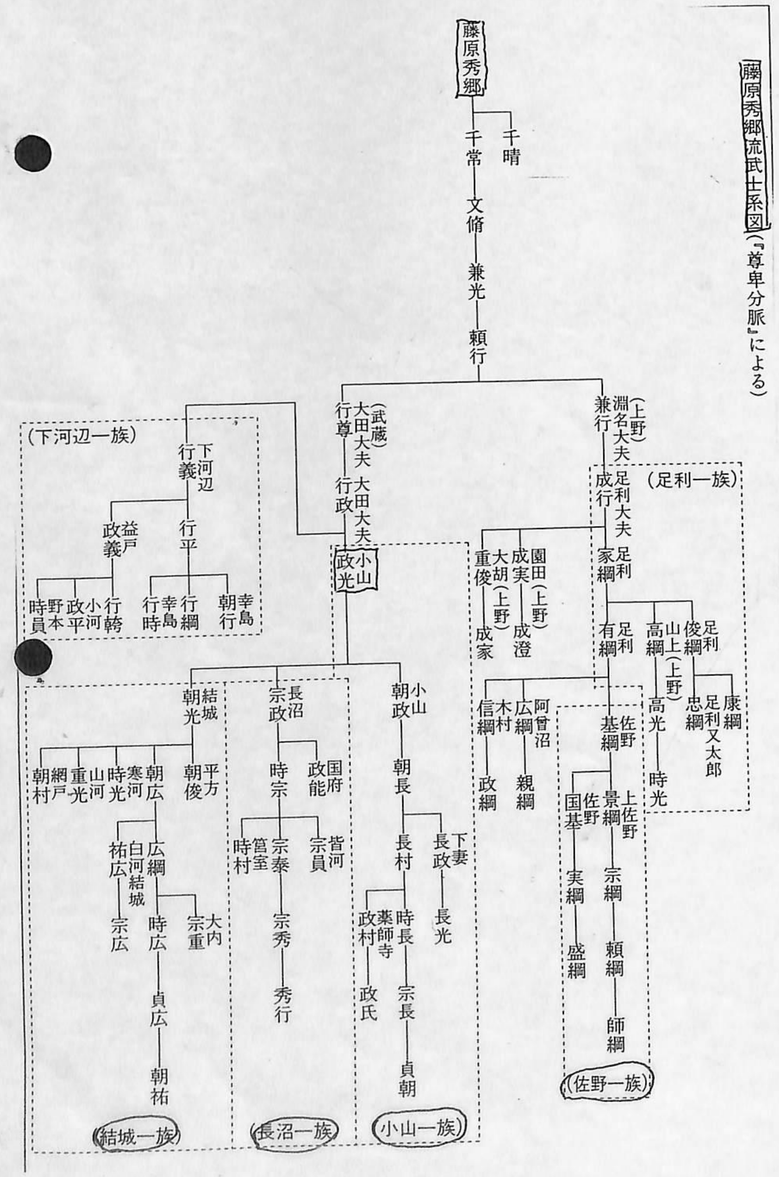
佐野・小山の史跡

2011年10月7日（保科）

《ご案内先》　惣宗寺⇨小山（祇園）城址・小山家歴代の墓所・小山御殿跡・小山評定跡

「今日の関東地方は、当時『坂東』ともよばれ、さらに古くは『あずま』という名もあった。坂東とは足柄・碓氷の坂よりも東という意味である。けわしいこの二つの峠は、坂東を外部からさえぎる大きな障壁となっている。そして、その内部、つまり東側に、相模・武蔵・安房・上総・下総・常陸・上野・下野の八カ国があり、さらに北には蝦夷（えみし）の住む『みちのく』がつづいていた」　（上横手雅敬『源平の盛衰』1997年•講談社文庫）



●祇園城実測図
（『小山氏城跡範囲確認調査報告書Ⅰ』より）

春日岡山惣宗寺＝佐野厄除け大師（栃木県佐野市）

春日岡山惣宗寺

単に「春日岡（かすがおか）」とも称され、多くの人に親しまれている。

天慶７年（994）、藤原秀郷が春日岡（現•佐野城址公園）に日本最古の宗派•法相宗の寺として建立、朱雀天皇から「春日岡山惣宗官寺」の勅額を賜ったといわれる。平安末期、一時衰え荒れ果てるが、天台宗の僧により鎌倉期・永仁５年（1297）復興され、天台宗の寺となった。

慶長７年（1602）、領主佐野信吉が家康の命により唐沢城を春日岡に移す際、現在地に移転。

比叡山延暦寺中興の祖とされる元三（がんさん）慈恵大師（良源）を祀り、中世以来、厄除け・安全の祈願を続けている。正月大祭には100万人以上の参拝者を集める。

「関東三大師」の一。ほかに、青柳大師（前橋）•川越大師（喜多院）。

なお「関東厄除け三大師」として西新井大師・川崎大師・観福寺大師があるが、真言宗である。

惣宗寺山門　＝佐野城・三の丸にあった騎馬門（南大手門とも）⇨「山岸講師資料」（Ｐ８ご参照）

薬医門形式の大きな切妻をもつ瓦葺きの古風な門。佐野城のかつての姿を伝える唯一の遺構。佐野城が廃城になった際、当寺に移築され、現在に至っている。（薬医門＝本柱の後方に控え柱を立て、その上に女梁《めうつばり》・男梁《おうつばり》をかけ、切妻屋根を載せた門）

田中正造の分骨墓所　（佐野市小中町生まれ。1841~191。 満71歳で没す）

当山には江戸・明治・大正期、「正義」と「権力への反抗」を貫き通した田中正造の分骨が埋葬されている。正造ゆかりの６カ所の分骨場のうちの一カ所である。

ここに分骨されたのは、当寺で正造の本葬が行われたこと、自由民権運動当時、活動の本拠「中節社」の事務所が寺内に置かれていたことなどによる。

墓石には、自然石を愛した正造にちなみ、渡良瀬川流域に産する石が使われ、その前面に「嗚呼慈侠　田中翁之墓」と、国会議員時代の盟友・島田三郎が書いた文字が刻まれている。本葬には、近在の人たちだけでなく、全国各地から数万人が参集したという。

正造は江戸期、名主でありながら、村民たちとともに領主に政治的要求を行い、投獄されたこともある。明治に入ってからは自由民権運動に参加し、23年の第１回総選挙で立憲改進党員として衆議院議員に当選する。以降、国会で足尾銅山鉱毒問題に取り組み、同34年には議員を辞職して明治天皇に対し直訴まで敢行。生涯を鉱毒問題解決と治水事業に捧げた。

自らの資産はすべて鉱毒反対運動などに使い果たし、死亡したときはまったくの無一文だった。旅先の知人宅で倒れたとき、唯一の財産だった信玄袋の中味は、書きかけの原稿・新訳聖書・鼻紙・川海苔•小石３個•日記３冊・帝国憲法とマタイ伝の合本だけであった。

田中正造翁

小山（祇園）城址（栃木県小山市）国指定史跡

立　地：小山駅の西方500メートル、思川東岸の台地上に南北に長く、西側は思川の侵食により危地立った崖になっており、天然の要害を利用している。東側は宅地造成が進み、旧状を失っているが、台地の部分には中世の名城の面影がよく残っている。

縄張り：幅10メートル以上の空堀と土塁で仕切られた曲輪が並び、天翁院の北側の塁濠が城の北限を示している。しかし、南限は明瞭でない。

歴　史：小山氏は、関東有数の豪族領主として知られ、初代政光以来、鎌倉幕府内で勢威を誇ってきたが、第11代義政に至り関東管領足利氏満に叛したため滅亡した。後に、室町幕府の配慮により、同族の結城氏から基光の次男泰朝が小山に入り、第２次小山氏の祖となった。

泰朝はこの城址の一角に居を定めたと考えられるが、場所は不明という。その後、第３代持政のとき、大いに拡張整備された模様である。戦国時代末期、第９代政種は小田原の後北条氏に加担したため、秀吉の怒りに触れて没収追放の身になり、天正18年（1590）第２次小山氏も亡びた。

家康の時代になり、慶長13年（1608）本多正純が城主となるが、元和５年（1619）宇都宮に転封されると、本城は廃城となった。

小山家墓所（天翁院）

天翁院は、室町期、曹洞宗の僧・培芝正悦により開かれた古刹。小山家歴代の墓は寺のいちばん奥まった場所にひっそりたたずんでいる。

久寿２年（1155）、小山家初代の政光により開基され、文明４年（1472）、小山高朝が中久喜城から現在地に移建した。「天翁院」は高朝の法名「天翁孝運」にちなんでいる。防火樹として植えられた樹齢400年を越えるコウヤマキも寺内に。

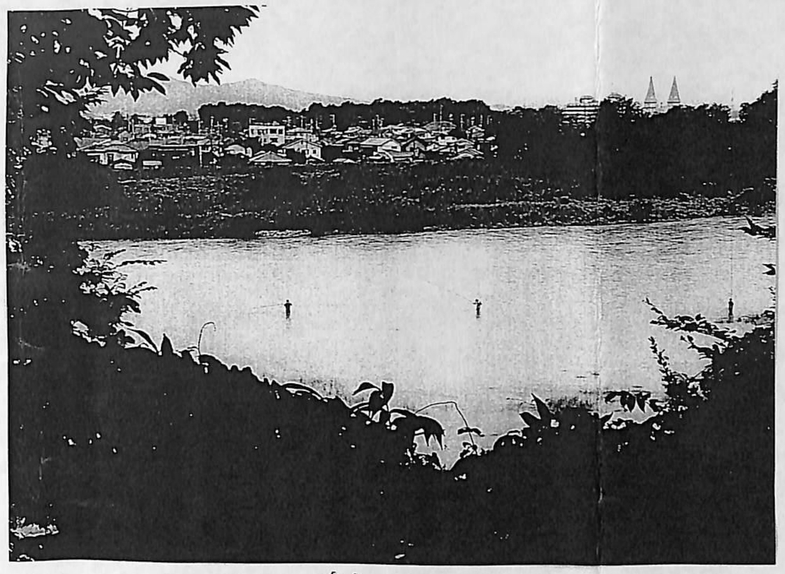
小山御殿跡（栃木県小山市）

小山御殿は、徳川将軍家にとって「聖地」というべき日光東照宮を社参する際の休憩・宿泊所として２代秀忠の時代、元和８年(1622)設けられた。

その目的にかなうよう、小山御殿は厳重な配置になっていた。周囲に堀が廻り、土塁が二重に築かれ、敷地内16カ所に御番所が設けられた。

将軍家の日光社参は前後19回に及んだが、中でも３代将軍家光は10回参詣している。寛文３年（1633）４代家綱が行って以降、８代吉宗が享保13年（1728）再開するまで、財政難により社参は中絶される。将軍が日光に社参する費用は１回当たり、およそ10万両と推測されている。『江戸の経済官僚』佐藤雅美・徳間文庫）。

この間、大風により建物の一部が破壊したこともあり、御殿は天和２年（1682）古河藩により解体された。

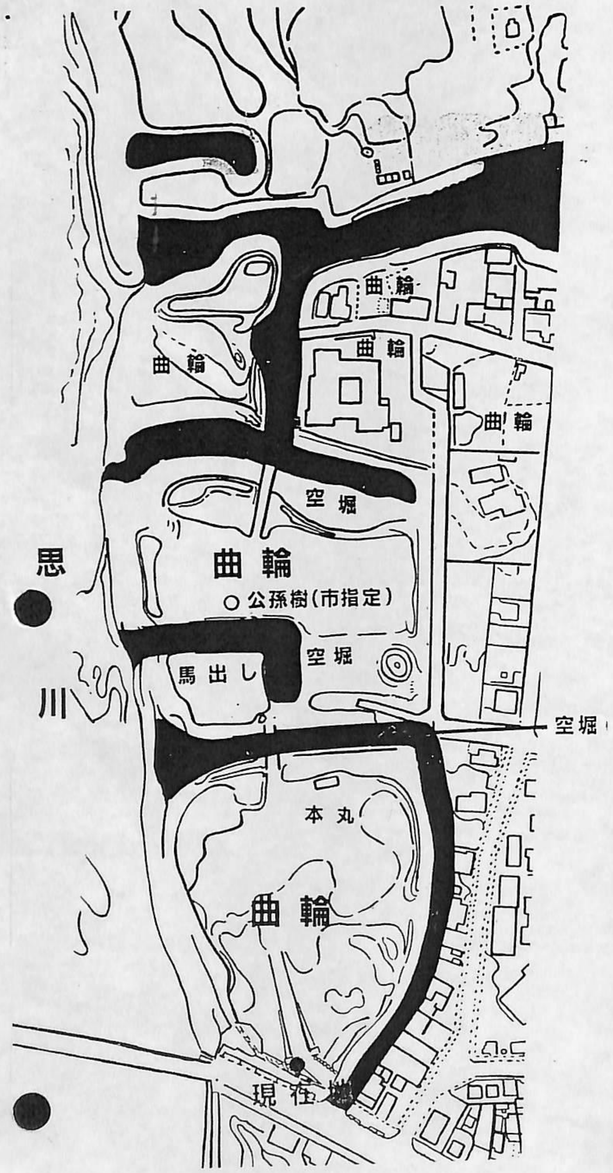


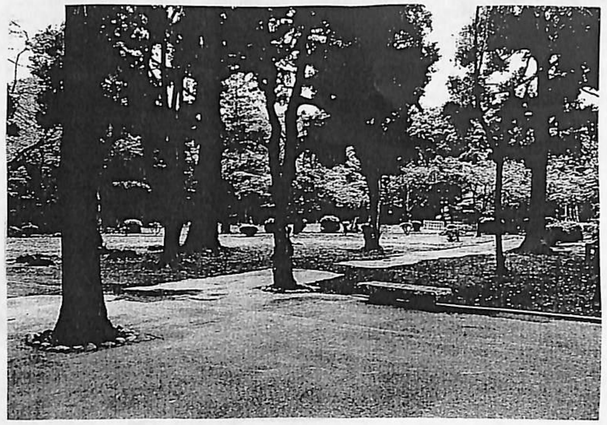
思川という天然の要害を背負って

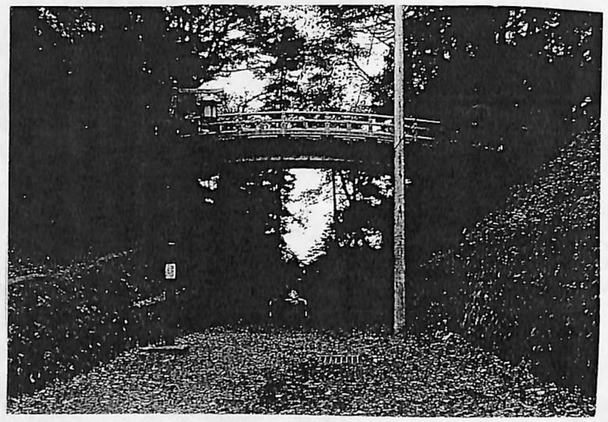
祇園城関係年表

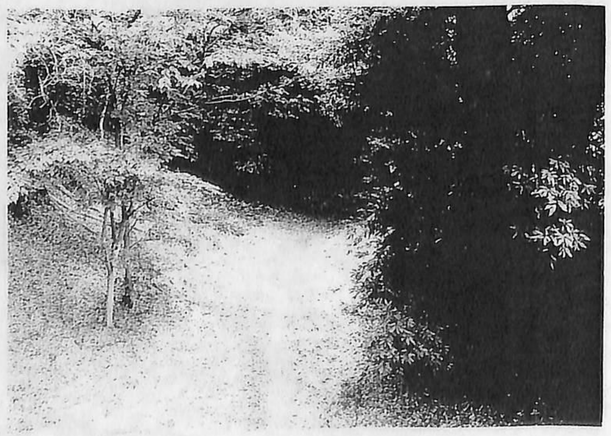
藤原秀郷
森戸果香画(栃木県立博物館蔵)

年号	西暦	主な出来事
治承 4年	1180	小山政光の妻(寒河尼)、源頼朝に隅田で再会。
寿永 2年	1183	小山朝政ら、反頼朝方の志田義広を破る。(野木宮合戦)
文治 3年	1187	寒河尼、頼朝より寒河郡網戸郷の地頭職に任じられる。
建久 3年	1192	源頼朝、征夷大将軍に任ぜられる。
寛喜 2年	1230	小山朝政、所領・所職を長村に譲る。
建武 3年	1336	小山氏、足利尊氏に従い、新田義貞を破る。
康暦 2年	1380	小山義政、宇都宮基綱と戦う。その後、鎌倉府軍と戦うが降伏する。
永徳元年	1381	小山義政、再度鎌倉府軍と戦う。義政は鷲城にたてこもるが、ほかに祇園城・岩壺城(中久喜城カ)・新城(長福城カ)・宿城(神鳥谷曲輪カ)を構える。降伏後、鷲城を開城し、祇園城に入る。
永徳 2年	1382	小山義政、祇園城に放火し、糟尾山にたてこもるも、鎌倉府軍に破れ自害する。
至徳 3年	1386	義政の子若犬丸、祇園城にて挙兵。
応永 4年	1397	若犬丸、奥州会津にて自害する。若犬丸の子、六浦に沈められる。
応永		結城氏より泰朝を迎え、小山氏再興(重興小山氏)。
永享11年	1439	永享の乱(1438～)、祇園城、鎌倉公方方の那須氏に攻め落とされる。
永享12年	1440	結城合戦(～1441)、結城勢が小山宿城(祇園城)に来攻するも、小山方撃退する。
永禄 6年	1563	越後の上杉謙信、祇園城を攻め落とす。
天正 4年	1576	小田原の北条氏、祇園城を攻め落とす。
天正10年	1582	織田信長と北条氏の協定により、祇園城が小山氏に返還される。
天正18年	1590	豊臣秀吉、小田原北条氏を制圧。祇園城は豊臣方の結城氏に攻め落とされる。
慶長 5年	1600	徳川家康、小山評定を催す。
慶長 8年	1603	徳川家康、征夷大将軍に任ぜられる。
慶長13年	1608	本多正純、小山に入封。
元和 5年	1619	本多正純、宇都宮転封。(祇園城廃城)
元和 8年	1622	この頃、小山御殿が造営される。
天和 2年	1682	小山御殿解体される。

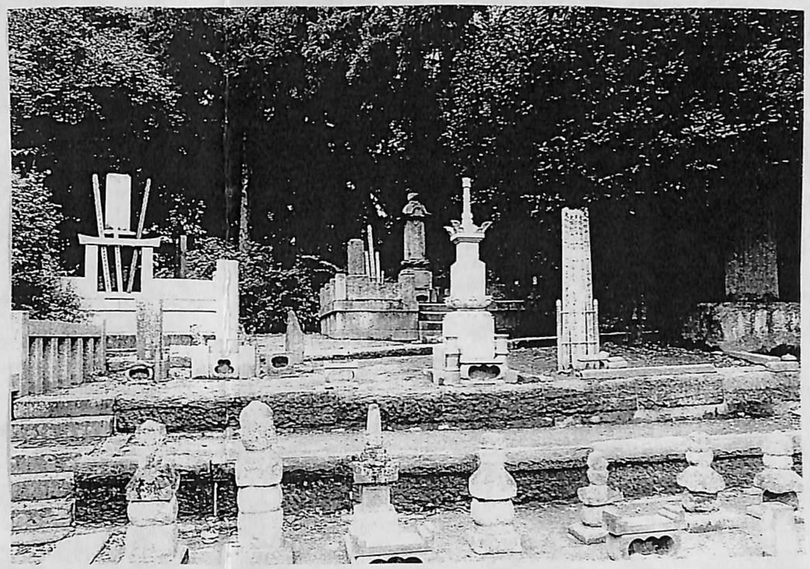




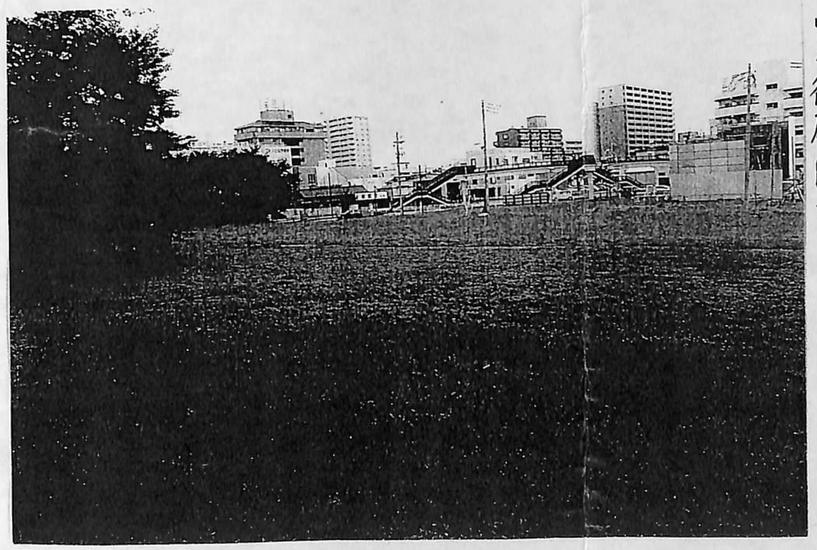




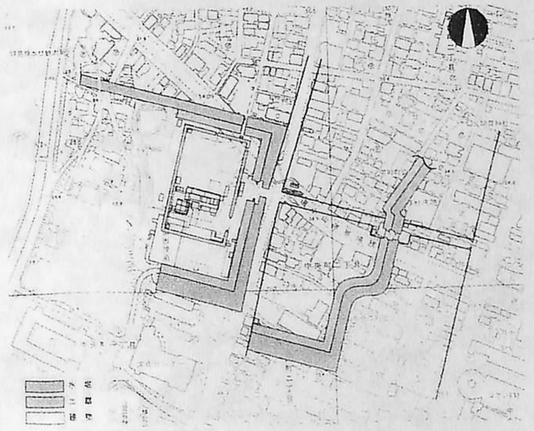
左上の見取り図の中の「どこに今いるのか」推量してください。



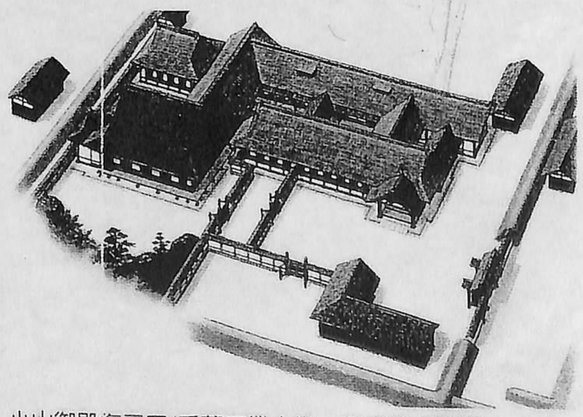
小山家歴代の墓所（天翁院）



小山御殿跡地



小山御殿推定位置図



小山御殿復元図(千葉工業大学　河東義之監修)

小山評定跡 （栃木県小山市役所前）⇨場所は明確には特定されていない

小山評定の由来（石碑説明文）

「慶長５年（1600）７月24日、徳川家康は、会津の上杉景勝を討つべく小山に到着しました。このとき、石田三成が家康打倒の兵を挙げたことを知り、翌25日、この地において軍議が開かれました。これが「小山評定」といわれるものです。

軍議は、３間四方の仮御殿を急造し、家康と秀忠を中心に、本多忠勝、本多正信、井伊直政や福島正則、山内一豊、黒田長政、浅野幸長、細川忠興、加藤嘉明、蜂須賀至鎮らの諸将が参集しました。福島正則が協力を誓い、これをきっかけに軍議は家康の期待どおりに決まりました。

同年９月15日、関ケ原の戦いが行われ、東軍（家康方）の勝利に結び付いた歴史上重要な所です」。⇨「小田原評定」

小山評定の内容に関する市教育委員会の解説（要旨）

「このまま上杉を討つべきか、反転西上して石田を討つべきか」と家康が質した。家康に従う諸将のほとんどは豊臣家譜代の武将で、大坂に妻子を残してきており、その去就が家康にとっては興亡の境目だった。

家康は「こちらに味方するも、石田に味方するも自由だ」とまでいう。これに対し、石田側に味方するため帰国したのは美濃岩村城主（４万石）田丸忠昌だけであった（真田昌幸・雪村親子は遠征途中の犬伏で離脱、代わりに嫡男の上州沼田城主・信幸が参陣）。

評定が硬直しそうになったとき、尾張清洲城主の福島正則が家康のため命を投げ出すことを誓い、遠江掛川城主の山内一豊も、『家康公に城を明け渡してまでもお味方する』と公言した。この発言が諸将の気持ちを動かし、評定の場は家康支持で堅く結束した。後に家康は一豊の建言を、『古来より最大の功名なり』と激賞した。（⇨『功名が辻』司馬遼太郎著・文春文庫）

家康が勝利を収めることができたのは関が原であっても、その勝利は小山で始まっていた」。

一豊の建言にならって、東海道に配置されていた秀吉恩顧の各大名※は次々に自城を家康に提供すると発言したのだ。一豊は小山を発って関が原に赴く際、掛川城に足を踏み入れることなく、家臣にも屋敷に入ることを禁じ、城下の寺や町屋に宿泊させたという。

関が原後、家康は一豊を掛川６万8,000石から一挙に高知20万2,600石に取り立てた。

※東海道筋に置かれていたのは、清洲の福島正則、掛川の山内一豊のほか、駿府（中村一忠）・浜松（堀尾忠氏）・吉田（池田輝政）・岡崎（田中吉政）らであった。

小山評定関係年表

年号	月	日	事　項
慶長3 (1598)	8	18	豊臣秀吉、伏見城で没する。
	9	3	前田利家、徳川家康ら、秀吉の遺児秀頼に忠誠を誓う。
慶長4 (1599)	閏3	3	前田利家、大坂で没する。 加藤清正・福島正則らが石田三成を襲撃する。
		10	三成、家康のはからいにより、奉行の職を辞して居城佐和山（滋賀県）に帰城する。
	9	28	家康、伏見城から大坂城西ノ丸に移る。
慶長5 (1600)	3		家康、会津の上杉景勝に不穏の動きがあることを察知する。
	4	1	家康、景勝に上洛を求める使者を送る。
	5	3	家康、景勝討伐を決意。
	6	16	家康、伏見城を出発して会津に向かう。
	7	2	家康、江戸入城。
		12	三成ら西軍、毛利輝元を総大将として家康打倒を決意。
		17	西軍、「内府ちがいの条々」（家康に対する弾劾状）を発する。
		19	西軍、家康の家臣鳥居元忠が守る伏見城を攻撃。
	7	24	**家康、小山に到着。西軍挙兵を知る。**
	7	25	**家康、小山の本陣に諸大名を召集して軍議を開く。（小山評定）**
	8	4	**家康、小山を発ち乙女河岸から江戸へ向かう。**
	9	15	関ケ原の戦い。家康方の東軍が勝利。
慶長8 (1603)	2	12	家康、朝廷より征夷大将軍に任じられる。 江戸幕府成立。

小山評定に参加した主な武将

No.	名前	城地	石高	関ヶ原後の城地・石高	
1	徳川家康	江戸	252万石	➡ 江戸幕府初代将軍	
2	徳川秀忠			➡ 江戸幕府二代将軍	
3	結城秀康	結城	10万1000石	➡ 北ノ庄（福井）	68万石
4	松平忠吉	忍	12万石	➡ 清洲	52万石
5	井伊直政	高崎	12万石	➡ 彦根	18万石
6	本多忠勝	大多喜	10万石	➡ 桑名	10万石
7	里見義康	館山	9万2000石	➡ 館山	12万石
8	蒲生秀行	宇都宮	18万石	➡ 会津	60万石
9	仙石秀久	小諸	5万石	➡ 小諸	5万石
10	森忠政	川中島	13万7500石	➡ 川中島	13万7500石
11	石川康長	松本	8万石	➡ 松本	8万石
12	京極高知	飯田	10万石	➡ 宮津	12万3200石
13	浅野幸長	甲府	21万5000石	➡ 和歌山	37万6000石
14	中村忠一	駿府	14万5000石	➡ 米子	17万5000石
15	山内一豊	掛川	6万8000石	➡ 高知	20万2600石
16	堀尾忠氏	浜松	12万石	➡ 松江	24万石
17	池田輝政	吉田	15万2000石	➡ 姫路	52万石
18	田中吉政	岡崎	10万石	➡ 柳川	32万5000石
19	福島正則	清洲	24万石	➡ 広島	49万8200石
20	富田信高	津	7万石	➡ 津	7万石
21	筒井定次	上野	9万5000石	➡ 上野	9万5000石
22	細川忠興	宮津	18万石	➡ 小倉	30万石
23	蜂須賀至鎮	徳島	18万6700石	➡ 徳島	18万6700石
24	生駒一正	高松	17万1800石	➡ 高松	17万1800石
25	加藤嘉明	松前	10万石	➡ 松山	20万石
26	藤堂高虎	板島	8万石	➡ 今治	20万石
27	黒田長政	中津	12万5000石	➡ 福岡	50万2400石
28	寺沢広高	唐津	8万3000石	➡ 唐津	12万3000石